

**製品名: TLN2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18985**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	279kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TLN2
別名	KIAA0320
遺伝子 ID	83660.0
SwissProt ID	Q9Y4G6
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

**背景**

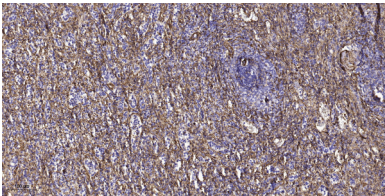
この遺伝子は、アクチンフィラメントの組み立て、および線維芽細胞や破骨細胞を含む様々な細胞の伸展と移動に重要な役割を果たす細胞骨格タンパク質であるタリン 1 に関連するタンパク質をコードしています。このタンパク質はタリン 1 とは異なる発現パターン

ンを示しますが、タリン 1 と同様に、独自の膜貫通受容体と会合して、細胞外マトリックスとアクチン細胞骨格の間に新たな結合を形成すると考えられています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: インテグリンをアクチン細胞骨格に結合させる接着斑の主要成分として、細胞接着において重要な役割を果たす可能性があります。PIP5K1C を接着斑にリクルートし、そのキナーゼ活性を強く活性化します。、類似性:1 つの FERM ドメインを含みます。、類似性:1 つの I/LWEQ ドメインを含みます。、細胞内局在:接着斑とシナプス。、サブユニット:PIP5K1C と直接相互作用します。、

## 研究分野

焦点接着;

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト脾臓組織の免疫組織化学分析。1、TLN2 ウサギポリクローナル抗体を 1:200 に希釈した (4°で一晩)。2、クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用して抗原賦活化した (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈した。